

③主体的に学習に取り組む態度の涵養

取組の具体①

【異学年での合同『学び合い』】

本校では、自分の考えをもち、伝え表現し合う活動を保障するために、異学年による合同『学び合い』学習を週1回設定している。具体的には、教科の取り組みやすさから「算数」の授業を中心に教室や多目的室で実践している。

この『学び合い』の授業は、子どものよさを表出させ、指導者はそのよさを見つけ出して子どもの意欲を高めるよう支援する授業である。この取組によって、子どもの親和的な関係が生まれ、自ら学びとろうとする自力解決力が育つと考えられる。

また、指導者にとっても、よいことをほめて育てる指導に授業改善を促す機会にもなる。そこで、「みんなでわかり合うことをあきらめない授業づくり」を重点目標に掲げ、多様な人と折り合いをつけて自らの課題を解決するために、「一人も見捨てず、全員達成」をゴールに取り組んできた。

《『学び合い』学習の進め方》

①指導者が課題を伝える(5分以内)

- ・「全員が自分の課題を達成するのが目標」と伝える。
- ・「わからないから教えて」と自分から動くことを推奨。

②「さあ、どうぞ」と促し、子どもたちが動く(約35分)

- ・子どもたちは最初はまず自分が課題を解くため動かない。
- ・徐々に他の子に教える子ども、教えるために移動する子どもが出て、動き始めグループが生まれていく
- ・やがて、グループどうしの交流がはじまり、多くの子どもが課題を達成する。まだ終わっていない子をサポートするメンバーがどんどん増える。

③「全員が自分の課題を達成」できたかどうかを振り返る。

「全員がゴールする」という目標に対してどうだったかを振り返らせる。

《児童の感想より》

- 自分から困っていることが言えて、友だちがわかるまで教えてくれたのでうれしかった。
- 積極的に話を聞いてくれたのでうれしかった。
- 私は、もっと人にわかりやすく伝えられるようになりたい。
- 「一人も見捨てない」というめあてがいいと思った。

『学び合い』学習において培いたい人間関係または主体的・対話的な力は、「困ったことをそのままにせず助けを求める力」「友だちの困りに気づく力」「友だちの考えに共感したり、相手を説得させるように説明する力」がつかう等、いろいろなよさに波及している。このことが、学力向上と、一人も見捨てない集団づくりに生きていと実感している。



【異学年での『学び合い』の様子】

子どもたちの誰ができていて、誰がつまづいているのかを子どもどうしがわかって助け合えるように、ネームプレートを使って可視化している。

